

教科名		図画工作	教科書調査報告
発行者名		開隆堂出版	日本文教出版
調査の観点			
A 内容について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・グルーガンを使う際のやけどを防ぐ方法や、塗装の作業をする際に換気に注意することなど、安全に道具を使用するための記載が工夫されている。 ・「まなびのしりょう」では、のこぎりやペンチなどの使い方について写真やイラストを用いて説明している。 ・一つの題材について、ページの上段には題材で使う主な用具や材料、学習のめあて、下段には作り方の解説や既習事項を確認するための関連ページの掲載、振り返りに関する記載とし、授業の展開が見開きのページで把握できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の左下に、「絵具と混ぜる水の量」や「複数の色を用いて塗る際の色合い、位置、対比」など、既習事項を具体的に確認し、活動に生かすことができるよう、掲載している題材がある。 ・電動のこぎりの使い方では、題材ごとの電源プラグの扱い方、手を置く位置、折れた刃の処理についてイラストと共に触れるなど、活動を行う際の安全指導を行いやすいような工夫がされている。 ・各学年の巻末では、用具ごとに複数の使い方や留意点をイラストを用いて解説している。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材の「学習のめあて」で、学習を通して育てたい3つの力を示している。また、その中で特に大切なめあてについては、下線を付すとともに、キャラクターの吹き出しによって、児童が考えたり、工夫したりする際の動機付けを図っている。 ・児童が作成した作品を多数載せるとともに、なぜその作品にしたか、制作の際の工夫などが書いてある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想のヒント、表現の手だてなどが吹き出しなどでまとめられており、構想の手掛かりとなっている。また、「図画工作で大切に3点」のうち、特に大切な点に関する「ヒント」を各題材ごとに一つ示し、考えたり、工夫したりする際に児童が確認できるような配慮がされている。 ・写真で活動の流れをイメージさせている。児童のつぶやきの吹き出しで思考が見え、参考にできるようになっている。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と関わる活動について、活動例を紹介している。 ・巻頭に、最新の美術作品や現在活躍しているアーティストの資料が掲載されている。 ・各題材に二次元コードが添付されており、解説の動画が視聴できるようになっている。また、アイデアや計画をまとめたり、作品をいろいろな向きから見た感じ方を記録したりする際のタブレット端末の活用について、記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方の動画が分かりやすく、音楽入りで紹介されている。 ・ICT機器の取り扱いやモラル、プログラミングを利用した表現などの資料が使用されている。 ・各題材に二次元コードが添付されており、解説の動画が視聴できるようになっている。また、「ICTの活用」のページを設け、「しゃしんをどうに生かす」「ICTで広がる美術かん賞」など、活用事例について、記載されている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・題材ページにSDGsコラムが設けられている。漂着ごみを用いた作品づくりや「住み続けられる町づくり」など、テーマと関連付けた取り組みを紹介している。発達段階に応じた内容を選択している。 ・海外の著名なアーティストや児童作品を掲載して国際理解に関する関心を高めたり、「つながる造形」では平和や外国の学校との交流等に関わる内容を取り上げたりするなど、多文化共生に配慮した構成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で紹介する活動や作品について、従前と比較し、プラスチック素材を約70%削減し、日々の授業における作品制作の際の配慮がされている。 ・片付けの項目で、材料を「また使えるように戻そう」など再利用を促している。また、3・4年生の「お気に入りの葉」など、SDGsにつながる特集のページの後に、それと関連しそうな題材が掲載されている。
B 使用上の便宜について	(1) 児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材の最初に、導入に際して使用することが可能な動画をタブレット端末で確認できる便宜が図られている。 ・題材名の近くに児童の写真が多く使われるとともに、題材の解説文を示しており、学習を進めやすいような工夫がされている。 ・複数の作例や異なる手法が掲載されており、多様な表現方法を学ぶことができる。児童が異なる材料や手法を取り入れやすいように工夫されている。 ・制作風景の写真の横に吹き出しが付けられ、他の児童と対話をする中で、作品や作業について自分の考えや感想を伝えており、児童が主体的に学習を進める際の例を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭に既習事項を振り返ることができる記載と目次があり、学習内容に興味をもたせられるように記載されている。 ・一つの題材に、複数の類似題材の作例が掲載されており、多様な表現を鑑賞することができる。児童が自分からアイデアを探しやすいように工夫されている。 ・制作風景写真の近くに児童の発言の吹き出しが付けられ、自分の作品について説明したり、工夫したところを伝えたりする際の例が示されている。 ・「学習のめあて」の項目やページ左下の「材料や用具」などにマークやイラストを用いて、見やすく整理されており、児童が気付きやすいように配慮している。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩市内の学校のような自然環境を生かした活動や樹木、木の実、落ち葉など身近な材料を用いた作品づくりを各学年で取り上げている。 ・3・4年上では、多摩市内のテーマパーク内の様子が紹介されている。地域の具体的な伝統文化や造形活動を取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科書美術館」のページで、東京都内を含む工芸作品や、多摩地区に現存する作品が紹介されている。 ・5・6年下「自然を感じるすてきな場所で」では、多摩市内の学校周辺にあるような緑地や校地内の樹木を利用した学習活動を展開している様子が紹介されている。他の学年でも自然環境を生かした活動が取り上げられている。